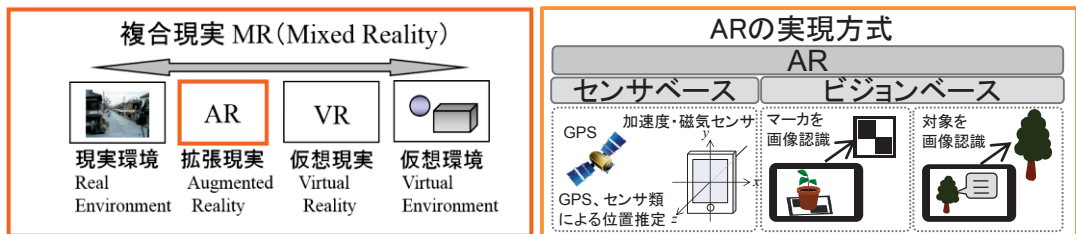


AR(拡張現実)を用いた設備保守支援技術 設備情報の「見える化」により 現場作業をサポート

背景・目的

- 拡張現実(Augmented Reality :AR)とは、現実風景にコンピュータで生成した「付加的な情報」を合成する技術であり、人間の知覚能力の拡張であると言えます。昨今、電力分野においても携帯デバイスを活用した設備の状態把握や関連情報の表示などの支援機能が検討されており、ARは設備情報の「見える化」によって巡視点検等の現場作業をサポートする有用な要素技術です。



特長

- センサ情報や画像処理を用いた「マーカレスAR」で、汎用性の高い先進的な方式です。
- 機器の任意箇所にピンポイントで情報を重ね合わせ表示できます。
- 市販のスマートフォンやタブレットで動作する可搬性の高い方式です。

用途

- 屋外設備の巡視点検（設備状態把握、手順誘導、誤操作防止）
- 屋内機器の点検、作業支援（設備状態把握、手順誘導、誤操作防止）
- 教育研修（技能継承、自律型学習）



屋内機器点検の動作イメージ



屋外機器巡視点検の動作イメージ

開発者の
ひとこと

コメント

基礎検討段階の次世代技術ですが、設備保守の高度化に向け研究開発を進めています。